

日本国際経済学会 第 70 回全国大会

第 8 分科会 アジア経済 (1)

於 慶應義塾大学 2011 年 10 月 23 日

(報 告 要 旨)

グローバル化下の韓国経済の諸問題—韓国経済の現状と課題—

明治大学大学院 博士後期課程

大津 健登

本報告は、グローバル化が進んでいる今日において、一国経済の発展していく動態＝1990～2000 年代における韓国経済の特徴や問題点を検討していく。韓国については、労働・雇用問題や格差拡大、財閥・企業の経営問題、政治・政策などの課題をはじめとして、生活環境に対する社会的問題まで、よく議論される。しかし、こうした問題は多面的に複雑化しているため、全体的なスケッチから捉えられるはずの重要で本質的な課題を把握できていない傾向が見られる。それゆえ、本報告は現在の韓国経済の全体像を明らかにすることを第一義的課題とし、その現状の分析を通じて、こうした社会的諸問題に対する本質的原因を探る。

まず第一に、1990 年以降、本格化する現代のグローバル化の進展が、韓国経済にどのような影響を及ぼしているのかを、1990～2000 年代の韓国の国際収支の動向から分析する。1990 年代から 2000 年代になって「変化」した点は、経常収支・財貿易収支が赤字の計上から黒字になったことである。1997 年アジア通貨金融危機以後、経済危機に陥った韓国は、輸出によって経済を「回復」し、2000 年代になって輸出が経済構造の軸である形を一層強めている。2008 年リーマンショック時の経済不況下においても輸出が経済を維持させた。金融面については、1990 年代から 2000 年代にかけて、外資が歴大に流入できる投資環境を継続して整備しており、外資によって経済が直接的に左右されるという図式自体に変わりはない。では、それをバランスさせるための財貿易の構造＝韓国経済を支える実態に問題はないのであろうか。

第二に検討する点は、上述した問題提起を、貿易構造や対外直接投資、国内での製造業生産性の変化から把握することである。2000 年代、貿易額が急拡大し貿易黒字を計上しているが、その要因は言うまでもなく、中国の市場の開放によるものであり、対外直接投資を通じた海外展開である。さらに、それは電気電子部門と輸送機械部門に特出した貿易・

対外直接投資の構成となっている。但し、日本に対しては戦後一貫して貿易赤字を計上しており、輸出主導による韓国の成長が日本からの輸入に規定されつづけなければならないという構造的弱みを孕んでいることに留意しなければならない。また、韓国の貿易依存度は 2008 年に 90%を超えるほどである。こうして積極的な海外展開によって成長と発展を求めながらも、韓国経済は輸出によって自身の経済が支えられている故に、国内で一定程度の生産（力）とそれによる輸出（競争力）を維持しなければならず、生産コスト・労働コストを削減せざるを得ない。したがって、労賃圧縮・不安定就業層の増大がもたらされ、社会的不満も蓄積する。それでも韓国経済の成長と維持の基本線＝輸出を主とした対外的な開放を継続的にとらざるを得ない状況は、グローバリゼーションに一層前のめりになっていく様相を呈しているといえよう。韓国は、この構造的問題にどのように対応しているのだろうか。

それが、第三の論点として、近年、頻繁に見られる FTA の発効や東アジア地域における経済共同体的関係の積極的推進である。いわば、グローバリゼーションとリージョナリゼーションという構図だが、どの立ち位置でもあくまで競争的構造の中に身を置いていれば、国外依存が高い韓国は、その軸である対外経済関係（世界経済における位置づけ）に韓国社会が規定されるという側面に変わりはないといえる。このような展開の中に、韓国経済を視る必要があることを指摘する。